中ノ迫 岩峰群 山行報告

日　程：令和 8 年〔2026 年〕11 月 3 日

参加者：土橋誠・河村志野・岡村繁雄 他 1 名

コース：中ノ迫駐車場 → 祠尾根（祠→P3.5-7～P3.5-0）→ P3.5 → P3 → P3.5 → P4 → P5
→ P6 → P7 → P8 → P8 懸垂下降後 P8 から P4 下部をトラバース
→ P3.5-1 と P3.5-2 間尾根通過後 → 中ノ迫駐車場

行動時間：6 時間 13 分

標高 400m弱の岩稜ルートである。バリエーションルートにしては全般的によく整備されており、踏み跡もしっかりしていることから、比較的多くの登山者に登られている様子である。







・登山のログ（ヤマレコより）　　……：下山ルート



P3.5-2 より



路肩の中ノ迫駐車場〔8：14〕出発

[P3.5-1 Ⅲ級の岩場]の標識から P3.5-1 の岩峰を登ったがその後、目新しい岩峰はなく P3.5 の標識のピークは、こんもりしたピークだったため上記の P3.5-2 より撮った写真の P3 の右の低い岩峰は、P3.5-1 ではないかと思われるが、確認できなかった。各ピークの名称や位置関係については、確認が必要である。



「祠尾根」標識を通過〔8：22〕



お地蔵さんを回り込んで祠尾根に〔8：26〕

駐車場を 8 時 14 分に出発。8 時 22 分に「祠尾根」の標識を通過した。駐車場から祠までは高低差が 50m 足らずで、ほどなく稜線歩きが始まる。



尾根の祠〔8：35〕





祠からすぐﾌｲｯｸｽﾛｰﾌﾟで下降〔8：37〕



下降後の登り〔8：39〕



懸垂下降〔8：55〕



P3.5-3 〔9：23〕



P3.5-2 への木登りのような登り〔9：27〕

途中には懸垂下降を要する箇所もあり、各ピークの取り付きや下降地点にはフィックスロープが設置され、比較的よく整備されていた。
P3.5-2 への登りは、木登りをするような感じで、その後フィックスロープを利用して登下降する。途中、展望の開けた場所からは、これから向かう P4・P5・P6、さらに P6・P7・P8 の岩峰群を望むことができた。



P3.5-2 よりフィクスロープで下降〔9：42〕



P3.5-2〔9：35〕



P3.5-2 から望む 右の岩峰が P3〔望遠〕



P3.5-2 から望む P4・P5・P6〔望遠〕



P3.5-2 から望む P6・P7・P8〔望遠〕



P3.5-1 への登り〔10：00〕



P3.5-1 への登る途中で「ハイ、ポーズ」
〔10：08〕



P3.5-1 と P3.5-0 間にて この後 右の P3 のピークを目指す〔10：16〕



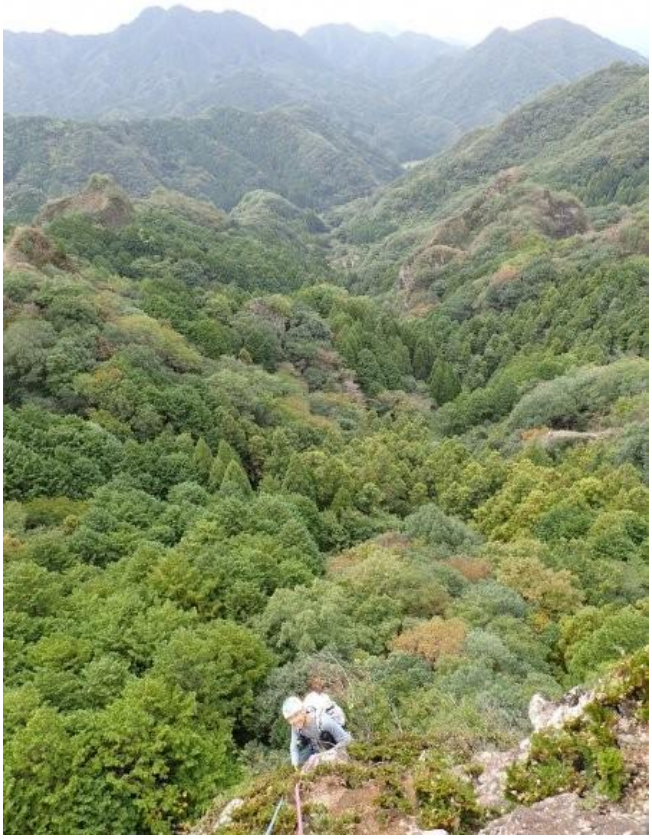
3P 登攀・1 ピッチ目〔10：58〕

P3 の登攀では、念のためクライミングシューズに履き替えた。
4 級－程度と思われるホールドやスタンスは豊富にあるものの、岩が脆く、強く荷重をかけると剥がれる可能性もあるため、慎重に登った。

P3 のピークで休憩していると、後続の 3 名のパーティーのトップが早くも登ってきた。
おそらく、途中でピッチを切らず登ってきたものと思われる。



中間でピッチを切って 2 ピッチ目
登攀途中で「ハイ、ホーズ」



P3 ピークより〔11：23〕



P3 ピークにて〔11：37〕





P3 ピークからの眺望



P3 からの懸垂下降〔12：03〕

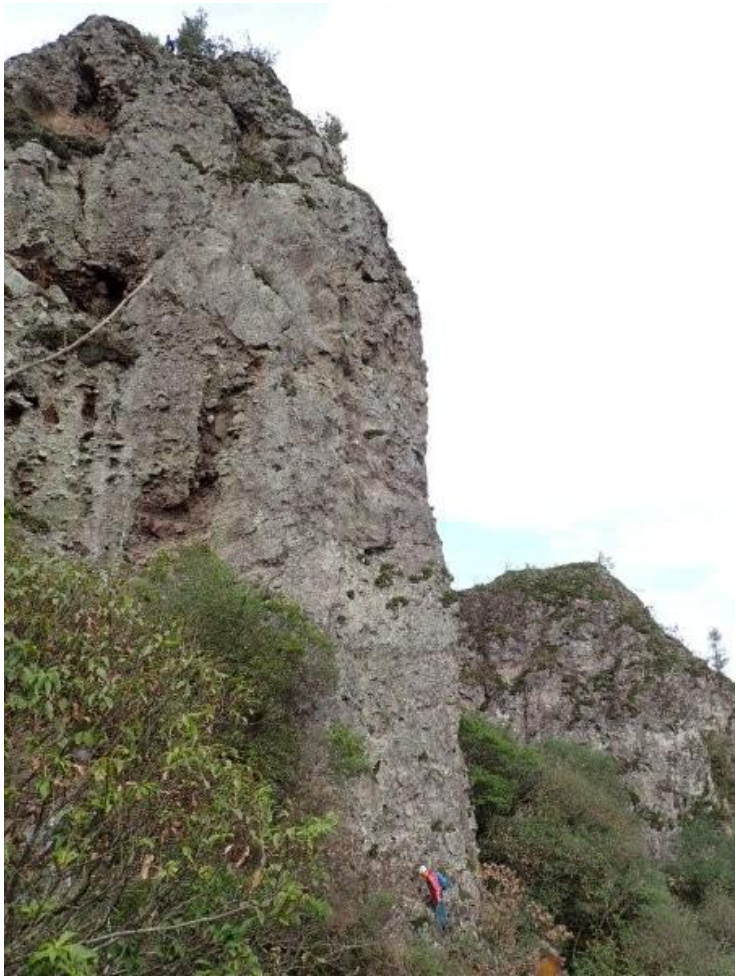




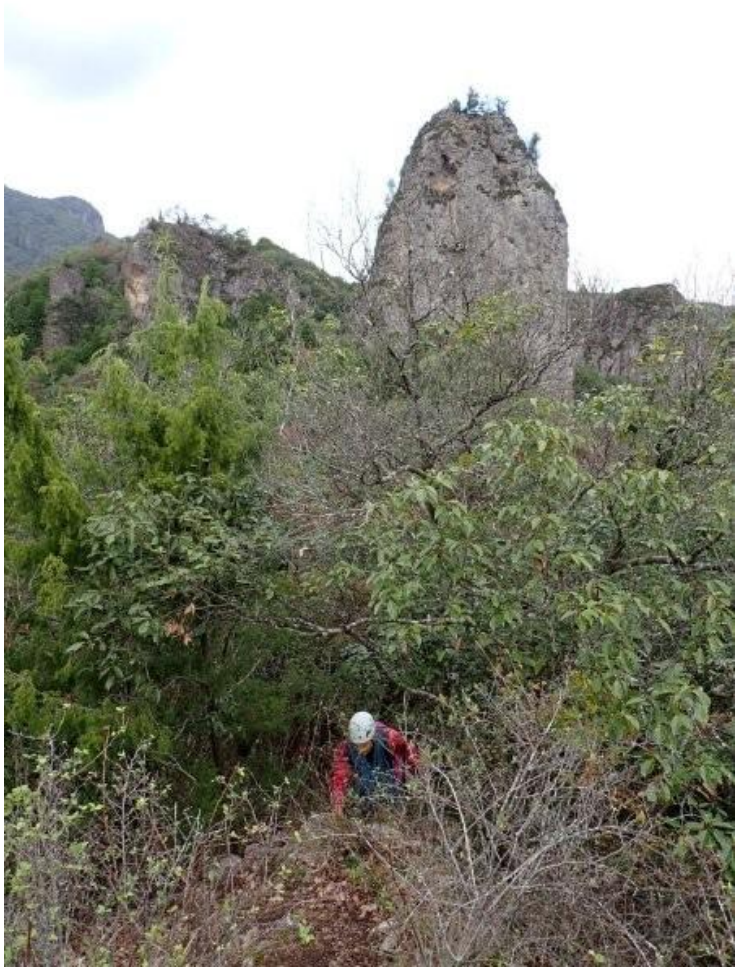
P３より下部に洞窟があり空中懸垂となる〔12：13〕



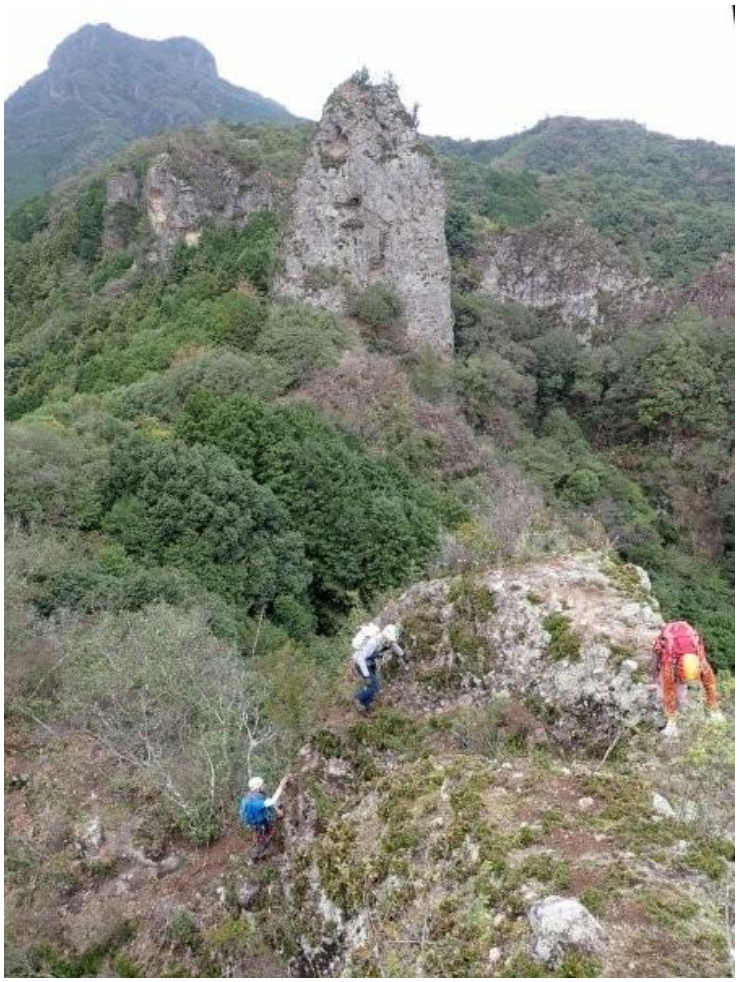
P３より立木を支点にしての２回目の懸垂下降〔12：22〕



P3 懸垂下降後　下部を回り込んで P3.5 へ向かう



P3.5 より P3 を望む〔12：33〕



P5 への登り〔12：39〕



P3 からは懸垂下降で岩峰を下り、下部を回り込んで再び P3.5 へ向かう。P3.5 のこの標識が設置されているピークは、こんもりとした形状で、ここが P3 と P4 方面への分岐点となっている。
P3.5-0 から縦走してくる場合は、左側を巻いて進むことができ、このピークを踏まずに通過できる。



P5 の細い岩峰を渡る（高度感があり スリル満点）〔12：41〕



P5 より懸垂下降〔12：47〕



P5 の下降は 傾斜が緩いので
下降器を使用せず下れた〔12：49〕



前方 P7〔12：53〕



P7 への登り〔12：57〕

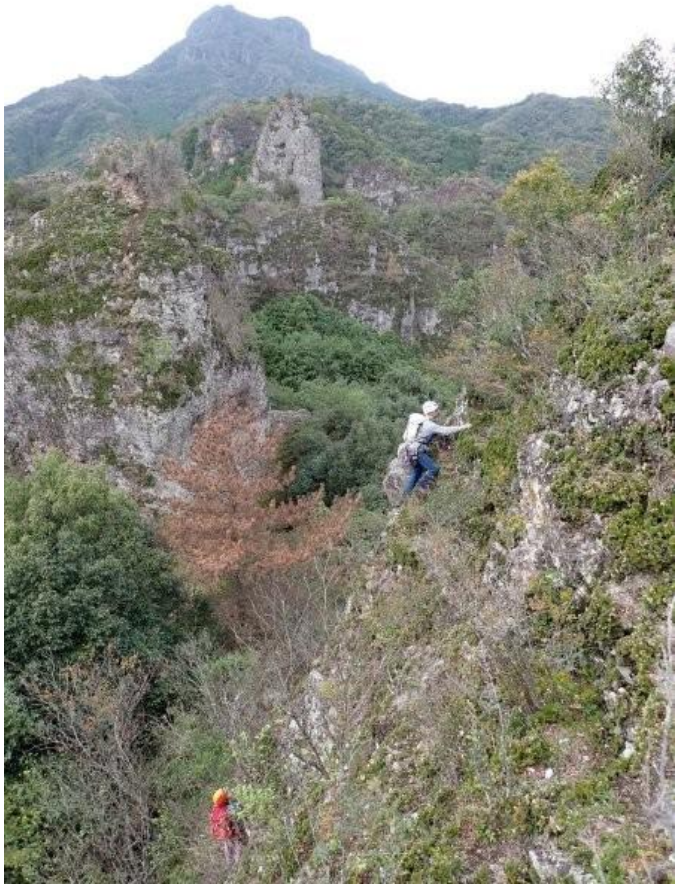


P7 からの懸垂下降 前方に見える P8〔13：02〕

P8 の登攀は、ホールド、スタンスともに豊富で、Ⅲ級程度である。しかし、セカンドで登っていた際、少し気を抜いていたところ、右足を置いた土のスタンスがごっそりと抜け落ち、下にいたメンバーに降りかかってしまった。
比較的多くの登山者が入っているため、岩場も安定しているように見えるが、まだ不安定な箇所も残っている。登攀時には、ホールドやスタンスの状態を十分に確認し、注意する必要がある。



P8 の登り確保地点より〔13：11〕



P8 を登るメンバー〔13：19〕



P8 のピークにて〔13：24〕



P8 からの懸垂下降〔13：39〕



P8 からの下山ルート〔13：57〕



この先に「P3.5-1 Ⅲ級岩峰」の標識がある〔14：06〕

P8 のピークに到着後、懸垂下降で岩峰を下り、しばらく休憩してから下山ルートに入った。
下山ルートは、登ってきた岸壁の下部をトラバースするコースである。ところどころに赤テープが設置されており、比較的よく整備されている印象であった。



P3.5-2 と P3.5-1 の間の縦走路に出る。右側が下山ルート〔14：10〕



下山ルート直後のトラロープ



途中林道を通過〔14：23〕



中ノ迫駐車場に到着〔14：27〕

途中、「P3.5-1 Ⅲ級岩峰」の標識がある P3.5-2 と P3.5-1 の縦走路に出る。そこから少し行くと右側に設置されたテープを確認し、トラロープのある中ノ迫駐車場への下山ルートを下っていく。特に迷うこともなく、途中で林道を通過し、14 時 27 分に駐車場へ戻った。

今回のルートは、標高が低く全体の高低差も比較的小さいものの、耶馬渓独特の岩峰が連なる稜線歩きに加え、登攀や懸垂下降を繰り返す変化に富んだバリエーションルートであった。

特に、P5 の細い岩峰を渡る箇所は高度感があり、P3 や P8 の登攀、各所での懸垂下降など、岩稜歩きならではの楽しさを十分に味わうことができた。

また、P8 からの懸垂下降後は、登ってきた岸壁の下部をトラバースする下山ルートが整備されており、1 時間弱で駐車場まで戻ることができた。

標高 400m弱の山とは思えないほど変化に富み、岩稜歩きやクライミングの要素を楽しめる、なかなか魅力的なルートであった。

北九州山岳同好会「嵐」

Reported by S.Okamura　Photo presented by S.Okamura

参考資料【ヤマレコ３Ｄマップより】

